

ふる～ぶ

吉野川ファン通信

VOL. 90

2007/8

「ふる～ぶ」はフランス語 (fleuve) で海にそそぐ大河のことです。
ひと、まち、自然、歴史、風景などの吉野川をとりまく様々な表情をみなさんにお伝えします。



1 page [特集] 吉野川アラカルト

川散歩道

東山手町、寺町界限
水と緑と歴史の街を歩く

徳島は、水の豊かな町。
市の中心部にも、それを感じられる場所があります。
文豪モラエスが歩いた道、そして眉山へ。
青き空と青き吉野川を眺めてみましょう。

3 page 吉野川いまむかし いろいろ絵はがき編

4 page ふる～ぶ編集部がおじゃましま～す! 松茂小学校の巻 みんなで考えよう 食の大切さ

5 page ふる～ぶめいと通信 吉野川市一斉清掃に参加しました。 今年の夏はふる～ぶ展へいこう!!

6 page Ra♪Ra♪Ra♪ エッセイ ハーブに感謝!! ふる～ぶ INFORMATION 「四国のみずべ八十八カ所」パネル展開催!

7 page よりよい吉野川づくり〈第27回〉 国土交通省徳島河川国道事務所では、他機関と連携し、 出水や渇水に対する被害の軽減や情報共有を図っています。

ふる～ぶひ・ろ・ぱ
編集後記・今月の表紙イラスト・プレゼント





東山手町、寺町界隈 水と緑と歴史の街を歩く

徳島は、水の豊かな町。

市の中心部にも、それを感じられる場所がいくつもあります。

そして、文豪モラエスが歩いた道。

散歩の最後には、眉山へ。

青き空と青き吉野川を眺めてみましょう。



名水の流るるお寺 眉山山麓の瑞巖寺

徳島市東山手町。眉山山麓にある瑞巖寺(臨済宗妙心寺派)。木漏れ日がきらきらと輝くなか正門をくぐり、階段を上った私たちを迎えてくれたのは、ご住職である内藤大然さん(67歳)です。

瑞巖寺は、慶長年間より400年以上続く由緒正しきお寺。古くは、宮城仙台松島の瑞巖寺、岐阜小島の瑞巖寺と並んで、扶桑三島の瑞巖寺と称されていたということです。

こちら瑞巖寺といえば、まず思い浮かぶのは、阿波の名水『鳳翔水』と、眉山山麓という地形をいかした庭園。鳳翔水は、以前は眉山の山肌から湧き出していたもので、ご住職のお話によれば、昔この名のついた井戸が境内にあったそう

です。この時から、豊かな水量があり、この井戸の水を汲んで、水売りの人が水を売りに市内へ出かけていたそうです。「これが、その時の水をいれてひいた車の跡ですよ」と、境内に敷かれた石を見て、ご住職が教えてくださいました。見ると、確かに車の跡のようなへこみが残っています。一時水涸れした水も、境内のボーリング工事によってまた噴出し、今でも1分間に200リットル、ドラム缶でいうと1本分の水が湧出しています。日々、水を汲みに多くの人が訪れており、毎日のお茶や炊飯用などに使われています。木漏れ日のなか、境内を流れる名水が人々の暮らしにとけ込んでいることを感じました。

手にすくって飲むと、まさに甘露。乾いたのどを名水で潤したら、庭園の散策

です。瑞巖寺庭園は、江戸初期に造られたもの。中央の滝の正面に架けられた石橋と山腹より流れおちる湧水は、この庭の見所です。

市の中心部に、このような湧水の流れる情緒ある庭園があることは、他にあまり例のないことだということです。

実は、これらの庭園や境内の木々のお手入れは、庭師をいれることなく、すべてご住職ご自身で行っています。実際に、カエデ、マキ、スギ、ソメイヨシ

ノ、シダレザクラ、サツキなど、多くの木々や花が植えられている瑞巖寺。先代のご住職が、戦後すぐの食べることもままならない状態の時に、「これからは、緑が必要」と境内にさまざまな木を植えられたそうです。父上である先代のご住職と一緒に木の剪定をしたり、石を運んで石組みを考えたりなさったそうです。

庭のことを話す時「私は、庭が好きでなぁ」と、ふっと優しい表情になるご住職。もともとと自然が好きで、剣山などに出かけ、



心のフレームに焼きついた風景をお寺の庭に応用できないかと考えることもしばしば。季節を通じて、花々や木々に眼を配る。ここ伸びたなぁと思って切ってやる。そんな毎日だそうです。

美しい木々の緑。木々の間からこぼれる日差し。鳳翔水の流れる瑞巖寺。ゆったりと落ち着いた時間を過ごさせていただきました。

徳島を愛したモラエス

瑞巖寺の正門を出て、すぐ南は伊賀町。ここは、徳島を愛した文豪モラエスが、1913(大正2)年から1929(昭和4)年までの17年間住んでいた地。伊賀町はモラエス通りと名づけられ、旧居跡の碑も建てられています。

モラエス(ヴェンセスラウ・デ・モラエス)は、ポルトガル人のリスボンで



モラエス旧居跡と、モラエス通り。

生まれ、海軍士官として1888(明治21)年にマカオに赴任。その後、神戸でポルトガル領事館の総領事を務めました。神戸での副領事時代に出会ったのが徳島市出身のヨネ。モラエスとヨネは恋におち、1900(明治33)年にヨネと結婚。幸せな時間は短く、1912(明治45)年に死別。ヨネを亡くした悲しみから、モラエスは翌年にヨネの郷里である徳島市に移住し、ヨネの姪であるコハルを妻として迎え、長屋での生活を始めましたが4年後にコハルとも死別。徳島の地で「日本精神」「徳島と盆踊り」「おヨネとコハル」など多くの著書を残しました。モラエスはポルトガル語で原稿を書き、海外で出版されていたことから、生きている時にはモラエスが文豪であることなどは地元の人々には知られていなかったようです。モラエスの死後、翻訳出版されるようになり、日本国内でも高い評価を得ています。

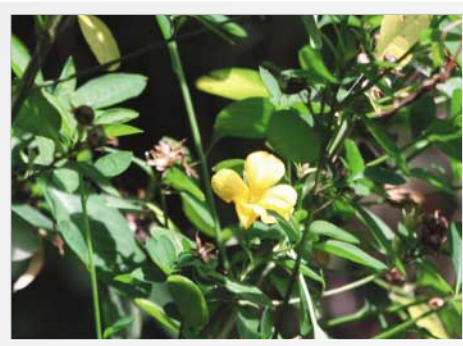
モラエス館へ

伊賀町を出発したあとは、モラエスのお墓がある寺町潮音寺へ。その後モラエス館がある眉山山頂へ。モラエス館には、徳島市の観光ガイドボランティアの事務局もあることから、観光ガイドボランティアが、館内を詳しく案内してくれました。当時の居間兼書斎も再現しています。また、直筆の原稿や著書、妹に送った絵ハガキ数百点など、貴重な資料を展示しています。展示されている年表に「1901(明治34)年ヨネと一緒に、香川県琴平町にある金刀比羅宮へお参りをし、帰りは阿讃国境、清水越えて脇町へ。脇町からは吉野川をくだり、徳島市へ滞在」という記載がありました。



館内の様子。

「眉山と青い川が流れる徳島市の景色は、モラエスの故郷であるポルトガルのリスボンと雰囲気がよく似ています。モラエスは徳島を愛し、故郷と同じ思いを抱いていたのでしょうか」との説明もありました。そのあと、眉山山頂から見た吉野川と空は、どこまでも続いているかのような青さでした。



寺町にある焼き餅屋さんの庭には、滝が流れ、モラエスが植えたといつたえが残されているモラエスの花(黄花垂麻)が咲きます。(11月~4月はじめごろまでが見ごろ)



観光ガイドマップ



観光ガイドボランティア

モラエスの人柄や時代背景など、丁寧に説明していただけます。土曜、日曜、祝日には徳島市の観光コースを寺町コース・眉山コース・徳島城コースの3つにわけ、無料で案内もしています。ただし施設入場料等は別途必要です。前日17時までに予約を。

[問い合わせ先…088-623-5342]



眉山山頂からの眺め

吉野川 いま むかし

このコーナーでは、吉野川の
今と昔の写真を見ることによって、
ふるき時代をみつめ、
未来の吉野川を創造します。

第15回

いろいろ 絵はがき編

阿波市在住の高田恵二氏が、コレクションとして集めている
大正時代から昭和初期にかけての絵はがきの第二弾です。
今回は、いろいろな場所が撮影された絵はがきをご紹介します。

昔



高越山と吉野川

「徳島県立麻植中学校繪葉書」のセットに入っていた1枚。校舎だけでなく、川島町の町並みの絵はがきがセットになっていました。

今



遠くに見える高越山。
山の稜線は今も同じです。



土柱

100万年前の氷河時代に堆積した扇状地が隆起し、雨などの浸食によって形成されたと言われている阿波市の土柱。昭和31年には、放浪画家・山下清も訪れました。



昔

阿波市にある土柱は、イタリア・チロル地方の土柱、アメリカ・ロッキーの土柱とともに、世界三大奇勝のひとつに数えられています。

土柱は、はとうがたけ 波濤嶽・橘嶽・苺嶽・不老嶽・燈籠嶽・扇子嶽の六嶽からなり、この中で波濤嶽は昭和9年に国の天然記念物に指定されました。現在も侵食が続いています。

今



土釜・鳴滝

絵はがきに押されたスタンプには、土釜・鳴滝、4月12日、銀行による春季大運動会と書かれています。



昔

四国のみずべ八十八カ所にも選ばれている美馬郡つるぎ町にある土釜と鳴滝。土釜は岩の侵食により形成された滝壺です。鳴滝は落差85m、3段に分かれた荘厳な姿をみせています。土釜と鳴滝は約700mほどしか離れていないので両方を楽しむことができます。

今



ふる〜ぶ 編集部が おじゃまします!

松茂 小学校 の巻

徳島の玄関口、徳島空港のすぐそばにある松茂小学校。屋上からは飛行機の離発着も見ることができます。空港の周りにはサツマイモの松茂美人やレンコンが生産されています。平成18年11月から学校における食育推進研究校として指定をうけ、さらに平成19年度も継続して「地域の実態に応じた食育の研究」を進めています。地域を含め、学校だけでなく家庭でも取り組んでいる松茂小学校。今回は参観日におじゃまさせていただき、食の大切さについての授業を見学させていただきました。

「みんな今日は朝ごはんを食べてきたかな。朝ごはんのいいところは何かな?」と呼びかける松茂町学校給食センター栄養教諭の小橋和子さん。参観日当日は4年生108人を対象に、体育館で「朝ごはんをきちんと食べよう」をテーマに授業が行われました。朝ごはんには、「1日元気に運動できる」「脳にエネルギーが送られる」「胃や腸がきちんと働く」といった効果があります。大切なのは、よくかんでゆっくりと食べること。保護者も後ろから見学するだけでなく、子どもたちと一緒に、朝食食べてきた食事について、赤(魚、肉類、牛乳、海藻、卵など主に体をつくる食品)緑(野菜類…主に体の調子をととのえる食品)黄(穀物類…主にエネルギーのもとになる食品)の大き



最初は〇×クイズで楽しく授業。

「みんなで考えよう 食の大切さ」

さ、そのデータは無線や堤防に設置された光ファイバーにより、集められています。なお、集められた水位情報は、日々の河川状況の把握、洪水時における水防活動や住民への避難勧告などの目安となります。



朝ごはんの献立を考えよう。

く3つに分類し記入しました。その後、子どもたちだけで、理想の朝ごはんの組み合わせを考えていきました。ハンバーガーとドーナツと炭酸飲料の組み合わせを考えていた子どももいましたが、先生から「ジュースを牛乳にかえてみよう。ハンバーガーとドーナツ両方では食べすぎになるね」と分かりやすく説明がありました。参観日にこうした授業を行うのは、家庭や地域でも食育をすすめていきたいという願いから。今回は4年生でしたが、全学年を対象に食の大切さを伝える時間を設けています。給食では農家から直接さつまいも、大根、レンコン、チンゲン菜などを購入し、食材として利用しています。毎月こども達や保護者に渡す「給食だより」には、献立だけではなく、食の大切さが、分かりやすく紹介されています。授業の後、子ども達からは「朝ごはんをたべると、体にいいことがたくさんあることがわかりました」。保護者からは「早寝、早起き、朝ごはんを基本にしてバランスのとれた楽しい食事を心がけたい」「食べることで目で見えるなどの五感を働かすこともわかりました」といった感想が寄せられていました。これからも年間を通じて食の大切さを伝える授業が行われていきます。



どんな食事ができていくな。

小橋先生手作りのプレートを使って子どもたちが考えた朝ごはんのメニューを、体育館の壁に掲示して見せてもらいました。



小橋先生手作りのプレートを使って子どもたちが考えた朝ごはんのメニューを、体育館の壁に掲示して見せてもらいました。

吉野川 辞典

す すい かん そく じょ 水位観測所

水位観測所は、支川の合流箇所や分派箇所など水量変化が大きい箇所に設置されています。

徳島河川国道事務所では、吉野川の池田、岩津など18箇所に水位観測所を設置しています。

水位は、常時水圧式水位計により自動で測定



▲岩津水位観測所

水位情報は、トップページ <http://www.toku-mlit.go.jp/> メニューバーの『吉野川防災情報』をクリックしてください。



「ふる〜ぶめいと」は、
吉野川が大好きな
人たちの集まりです。

「ふる〜ぶめいと」の活動は、吉野川や吉野川流域に関する身近な情報を「ふる〜ぶ」に提供することにより、
吉野川に親しみや、関心を持っていただいて、吉野川ファンの輪を広げていただくことを目的としています。

めいと レポート

吉野川一斉清掃に参加しました。吉野川市 今中 忠重さん

7月1日に吉野川、旧吉野川、今切川
流域の一斉清掃が流域住民や各種ボラン
ティア団体の参加により行われました。

私の住む吉野川市鴨島町には、かつて吉野川の南流
路であった江川があります。その源流の吉野川遊園地
近くには国の名水百選に指定されて
いる湧水源があり、一帯は水鳥や川魚
が泳ぐ親水公園になって市民の憩い
の場となっています。

ところが、生活排水や捨てられる
たくさんの各種ごみにより汚れがひ
どく、地域住民がたちあげた「NPO
法人江川エコフレンド」が近くの

中学生の協力で毎月1日に清掃活動をしているのですが、
年に一回、吉野川一斉清掃に合わせて、遍路道の清掃
活動をしているボランティア団体「かも研究塾」と共に「ク
リーンウォークインザ江川」と名づけて、清掃内容や範
囲を広げて清掃を行っています。

今年は、渇水のため水路には水がありません

ので、川底に降りて草を刈り、掘り
起こしてビニール・トレイ・空缶そ
の他生活ごみを回収しました。

近くの中学生(80人)と住民のお
よそ180人によって、すっかりきれい
になった江川。水量が増えればまた
元の美しい川に戻ることでしょ



ふる〜ぶ展

今年の夏はふる〜ぶ展へいこう!!
皆さんのご来場をお待ちしています。

読者の皆さんにご来場いただいている、ふる〜ぶ展!!
今年もシビックセンターで、西山欣子さんによる表紙イ
ラスト原画展、吉野川が大好きな吉野川ファンの集まり
ふる〜ぶめいとによるわらぞうりや、竹細工
などのイベントをご紹介します
パネルなど、吉野川の
魅力を再発見できる展
示を行います。

さらに今年は、毎日楽
しいイベントを開催!阿波
おどりの合間に、ぜひシビ
ックセンターへ遊びにきてくださいね。



日時 平成19年8月10日(金)~8月12日(日)
10時から18時。但し最終日は、16時まで。

場所 徳島市元町
徳島市シビックセンター5階ギャラリー

展示内容

- ◆西山欣子さんによるふる〜ぶの表紙イラスト原画展
- ◆ふる〜ぶめいとの活動について、パネルで紹介
- ◆吉野川の石に描いたストーンアート作品展
- ◆吉野川のいまむかしパネル展

イベント内容

- ◆初日8月10日(金)のみ。
先着100名様「ふる〜ぶキャラクター
ステッカー」プレゼント。 **かわいい**
- ◆8月11日(土) 10時30分~16時まで。
ふる〜ぶの表紙イラストを描いていただいている西山
欣子さんによる「色えんぴつ画」教室。
- ◆8月10日(金)と8月12日(日)の終日。
●吉野川の竹炭を使ったシューキーパー作り。
●新聞の広告チラシを使った紙風船と紙鉄砲作り。
当日、参加を随時受け付けています。(入場・参加無料)



このコーナーでは、「ふる〜ぶめいと」の黒川慶子さんにハーブの楽しみ方を中心に、食と健康、水の大切さなどについて語っていただきます。楽しいレシピなども登場しますよ。

ハーブに感謝!!

暑中お見舞い申し上げます。毎年のこととはいえ、八月は本当に人間にとってもハーブにとっても、試練の月のように思えます。私達も、自身や回りの人達の健康管理など大変な月ですが、どうかお体を大切に乗り切っていただきたいと思えます。ハーブも年中元氣な訳ではなく、春先の新芽の様子から想像もつかないくらい大変な目にあっています。どうか、いたわりの気持ちをもつて接してあげてほしいと思います。やがて迎える秋には、その結果がはつきりと現れることでしょう。



コモンマロウ

【黒川慶子さん経歴】

ハーブコーディネーター
板野町でハーブ農園を営む。
食と健康について、講演も務める。
徳島県薬草協会会員
上板町薬草協会会員

有効と言われています。喉の痛みには、ハーブティーでうがいをする、炎症が緩和します。美肌のために化粧水代わりに使ってもよいでしょう。花は、初夏から秋まで長期間開花します。収穫は、その日咲いた花を一輪ずつ手で摘み、ザルなどで天日乾燥させます。お茶の入れ方は、ティーポットにティースプーン一杯の乾燥したマロウを入れて、マロウ茶を作ります。熱湯でも水でもよいのですが、水出しをするとお茶の青い色はより鮮やかになり、長時間染しむことができます。その青いお茶にレモンを搾ると、たちまち夢のようなピンク色に変わります。蜂蜜を加えていただく、と幸せ色のジュースのようなお茶で、子供さんからお年を召した方まで、若男女を問わず楽しむことができます。また、市販のレモネードを使うとより簡単に楽しむことができます。ティータイムに是非どうぞ!!

ふる〜ぶ INFORMATION

「四国のみずべ八十八カ所」パネル展開催!

「四国のみずべ八十八カ所」実行委員会徳島部会では、「四国のみずべ八十八カ所」の周知活動の一環として、徳島部会委員である田村典子四国大学教授が演出等を手がける舞踊組曲「母子慕情 傾城阿波の鳴門より」と連携して「四国のみずべ八十八カ所」パネル展を下記日程・場所で開催します。

四国の自然、生命を育むみずべをテーマとした「四国のみずべ八十八カ所」の写真をパネル化しています。そのうち、徳島県内のみずべパネル数枚は、縦1.8m×横1.8m版に拡大し展示します。「母子慕情」のテーマに合わせて会場に展示することで、四国のみずべについて、多くの方々に広く情報発信します。



徳島

開催日…平成19年8月18日(土)19日(日)

場所…鳴門市文化会館 1Fロビー

東京

開催日…平成19年9月2日(日)

場所…東京都新国立劇場 2F 中劇場ホワイエ

国土交通省徳島河川国道事務所では、他機関と連携し、出水や渇水に対する被害の軽減や情報共有を図っています。

水防団との連携について

水防活動を迅速かつ円滑に行うため、その主体と関係機関、河川管理者からなる「吉野川上・下流水防連絡会」を開催し、連絡体制・重要水防箇所等の確認など水防関係情報について共有を図っています。また、重要水防箇所の合同巡視や水防工法技術講習会などを開催し、水防体制の充実を図っています。



▲水防連絡会



▲水防技術講習会



▲重要水防箇所の合同巡視

平成19年、吉野川の春から夏渇水への対応

吉野川水系では、5月、6月の早明浦ダム上流域の月降雨が通年の約半分であり、国土交通省四国地方整備局では、「吉野川水系水利用連絡協議会」などを通じて、流況等の情報を共有し、関係機関と協議を行い、平成19年5月末より早明浦ダムの取水制限を実施、円滑な渇水調整を行っています。また、適宜流量観測や水質調査などを行い、河川の状況の把握に努めています。



▲吉野川水系水利用連絡協議会



▲流量観測

※現在では、7月の台風4号により早明浦ダムの貯水率は、100%まで回復しています。

よりよい吉野川づくり 吉野川水系河川整備計画については <http://www.yoshinoriver.info>

第十堰の現状調査

徳島河川国道事務所では、「『よりよい吉野川づくり』に向けて」の基本的な考えに基づき、第十堰で継続的に実施している調査結果とともに、今後の調査予定を、平成19年7月5日に発表しました。

【平成18年度 調査結果】

■変状調査(目視調査、空洞化調査)

平成18年度には洪水が生じなかったため、簡易な方法により堰本体等の変状を確認した。平成17年度調査時との変化は確認できませんでした。

■堰取付部構造調査

上堰及び下堰左右岸端部について、詳細構造の実態把握調査を行い、堰本体と堤防が絶縁していない状態であることが確認できました。

■堰下流右岸深堀状況調査(計測施設設置)

堰下流右岸の局所洗堀状況の把握のため、河床面の変動状況を計測する施設を設置した。しかしながら、平成18年度には洪水が生じなかったため、計測結果は得られていません。

■漏水量調査

低水時の第十堰を通過する流量の実態把握調査のため、微流速計を用いた流量観測を実施し、各調査日時における各観測地点の流量を把握しました。

■構造諸元調査

既往文献と現地調査により、第十堰周辺区間の河川構造物を対象に、同一構造形式の施工年代と基本構造をとりまとめ、施工年代の異なる構造体の組み合わされた状態を確認しました。

【平成19年度の新たな調査】

■河床形状調査

第十堰周辺部の局所的な深堀に着目し、洪水時の河床洗堀状況を把握するため、ボーリング調査により、既往洪水時の河床形状を平面的に把握します。

くわしい内容につきましては

徳島河川国道事務所のホームページ

<http://www.toku-mlit.go.jp/>

吉野川資料館

考える

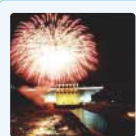
をご覧ください。

ふる～ぶ
ひる～ぶ

ふる～ぶ編集後記

瑞蔵寺は徳島市の中心地にあるのですが、一歩はいると静かな時間が流れています。取材中も次々と風翔水をくみに来る方がいました。いただいた風翔水、冷たくておいしかったです。(や)

8月10日から12日まで徳島市シンビックセンターで開催されるふる～ぶ展。日頃のふる～ぶの活動について知っていただく展示のほか、夏休みを楽しんでいた展示がいっぱい。夏休みは、ぜひシンビックセンターへお越しください。(か)



「やまびこカーニバル」8月4日と5日に開催されるやまびこカーニバルは、地域を代表する一大イベント。早明浦ダム下のふれあいひろばで開催されます。嶺北ビーフのバーベキューを食べながらの花火大会や、アメゴつかみどりなど楽しいイベントがいっぱい。

今月の表紙イラスト

竹とんぼプレゼント

竹細工教室で講師としてお世話になっている、ふる～ぶめいとリーダー長江順次さんが作成した竹とんぼを抽選で2名様にプレゼントします。ご希望の方は、ハガキまたはFAXに住所、氏名、電話番号、誌面の感想もお書きのうえご応募ください。締切は8月31日(金)です。
〒771-1156 徳島市応神町応神産業団地13-28
ふる～ぶ編集部「竹とんぼ」プレゼント係



ふる～ぶは、吉野川流域の市町村役場、図書館、博物館、公民館等の公共施設および道の駅にて、自由にお持ち帰りいただけます。皆様ご愛読ください。